

# 東京都市大学 アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー体系図（2020年4月）

## 東京都市大学

### 建学の精神

#### “公正”“自由”“自治”

「学びたい」という一心のもとに学生自らが支援者、教えてくれる人と校地・校舎を探求したことによって創立されたという経緯を尊び、「創立時における学生の熱情」を常に持ち続ける私学として、グローバルな時代に有為な人材育成に努めることを社会に誓う夢と希望のシンボルである。

### 教育理念

ボーダーを超えて、学生と教職員が共に考え、学び、行動することで社会に貢献できる人材を育てる。

### ビジョンー目指す大学像

80年を超える専門的実践教育の伝統に加えて、「都市」をキーワードに時代の要請に取り組み、国際都市東京で存在感を示す有数の私大を目指す。

### 教育目標

公正・誠実さと自己研鑽力を持ち、「都市」に集約されるような複合的課題に取り組むことができ、多種多様なボーダーを超えて新たな価値を見出すことで持続可能な社会の発展に貢献できる人材を育成する。

### 入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）

東京都市大学は、持続可能な社会発展をもたらすための人材育成を目的とし、その目的を達成するための学術研究の領域ごとに学部を設置しています。各学部では、それぞれ定めた「人材養成および教育研究上の目的」に基づき、以下のような能力・意欲・目標を持つ人を求めます。

1. 大学教育に求められる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を持つ人
2. 当該学部学科の学術研究領域に対する強い関心と意欲に基づき、自ら学ぶ姿勢を持つ人
3. 教育研究を通じて身につけた幅広い視野と専門的学識により、持続可能な社会発展に寄与する人材となることを目標とする人

### 教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

東京都市大学は、卒業認定・学位授与に関する方針を達成するために、以下のように教育課程を編成・実施します。

1. 「大学における学び方」を理解するため自校教育を含む初年次教育を実施する科目を配当するとともに、教育課程を通じて主体的・自律的な学習教育を実践する。
2. 学生が自らの知力と人間力を総合し、多様な知識・スキルを持った人々と協働して、複合的課題の設定とその解決にグローバルかつ未来志向の視点で取り組むための科目を配当する。
3. 実践的な英語スキルを含むコミュニケーション力およびチームワーク力を身につける科目を配当する。
4. 建学の精神「公正・自由・自治」を理解するとともに、専門に関わる倫理を理解・実践する力を含む人間力を身につける科目を配当する。
5. 多様な教養科目と、専門の基礎から応用までの知識とスキルを身につける科目を配当する。

### 卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

東京都市大学は、本学の教育理念に基づき、所定の単位を取得し、以下の知識・能力等を修得した学生に対して卒業を認定し、学士の学位を授与します。

- （自ら学ぶ力）
1. 主体的・自律的に学び、自己研鑽できる。（課題を探究する力）
  2. 「都市」に集約されるような複合的な課題に対してグローバルかつ未来志向の視点で取り組むことができる。（ボーダーを超える力）
  3. 多種多様なボーダーを超えて知識や考え方を共有し、新たな価値を見出すことができる。（協働する力）
  4. 公正・誠実に多様な人々と向き合い、柔軟に粘り強く協働することができる。（実践する力）
  5. 人類文化と社会を理解し、基礎的および専門的な知識とスキルを身につけ、それらを総合して持続可能な社会の発展に貢献することができる。

**入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）**

**【人材の養成及び教育研究上の目的】**

科学技術の根幹をなす“ものづくり”を支える工学と、自然科学における真理の探求を目指す理学を融合した理工学部では、「理論と実践」という教育理念に基づき、理工学分野の基礎および専門知識を身に付けるとともに、科学的根拠に基づく実践によって社会の要請に応えることができる先進的な技術力や論理的な思考力を備えた人材を養成することを目的とします。

**【求める人物像】**

- ・高等学校で学習する内容をよく理解して、専門分野を学ぶために必要な基礎学力を備えている人
- ・自然科学および科学技術に強い関心を持ち、未知の課題に取り組む意欲がある人
- ・理工学部で学び、専門知識と実践する力を身に付けることを目指す人
- ・多面的な思考力と幅広い視野を持って自らの考えを述べることができ、社会の持続的発展や人類の福祉に貢献する志を持つ人

**【高校での学習について】**

理工学部での学修を無理なく進めるために、高等学校では次の科目を履修していることが望まれます。

- ・数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B）
- ・理科（物理基礎、化学基礎、生物基礎、物理、化学、生物）
- ・コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ

**教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）**

理工学部では、「理論と実践」という学部の教育理念に基づき、理論的な裏付けに基づいた発想により、現実の問題を解決する実践能力を有する人材を育成する。そのために、下記の教育課程を編成する。

1. 幅広い教養と国際的コミュニケーション能力を修得し、それを支える心身を鍛錬するために、「教養科目」・「外国語科目」・「体育科目」・「PBL科目」を配置する。
2. 理工学全般に共通する知識・能力（実行、思考、協働など）・倫理観、および、深い専門的知識・能力を修得するために、「理工学基礎科目」と「専門科目」を体系的に配置する。
3. 社会の要請を見据えて、仕事を遂行する基礎力、実社会での課題を探究する能力、および実社会の複合的な問題を解決する能力を修得するために、「卒業研究」などを配置する。

**卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）**

所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得した者に、学科に応じて学士（工学）または学士（理学）の学位を与える。

1. 社会の発展に貢献する社会人としての、豊かな教養と人間性を修得している。
2. 理工学全般に必要な基礎学力と、学科の分野に対応する十分な専門知識を修得している。
3. 現実に即した発想のもとに、理論的裏付けを持った実践によって、社会の要請に対応できる能力を修得している。

<p style="text-align: center;"><b>機械工学科</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>人材の養成及び教育研究上の目的</b></p> <p>機械工学の専門知識の修得と実践的学習を通して、工業が自然や人間社会に及ぼす影響を理解しながら問題発見・問題解決をできるもの作りができる能力及び論理的な思考に基づいたコミュニケーション能力を向上させ、社会の要請に応えられる人材を養成することを目的とする。</p>	<p style="text-align: center;"><b>卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）</b></p> <p>所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（工学）の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現実の問題に対して多様性を理解し、工業製品やその生産が自然や人間社会に及ぼす影響について考えることができ、また負っている責任に関して理解しながら「もの作り」のできる能力を修得するための科目（教養科目、理工学教養、技術者倫理）を配置する。</li> <li>2. 自律的学習能力を修得するための教育目標に対して、科目の中に実験、実習、演習、卒業研究、技術レポートの作成、宿題等によるアクティブラーニングを設定する。</li> <li>3. 日本語で論理的に物事を考え、記述し、発言できる能力、またグローバルな世界で活躍できるコミュニケーション基礎能力を修得するための科目を配置する。</li> <li>4. 数学、自然科学など工学の基礎を習得し、他専門分野の基礎を自ら学べる基礎力と、機械工学に関する問題を解決する応用能力を修得するための教育課程を編成する。</li> <li>5. 機械工学のエンジニアとして必要な力学と設計科学に関する教育課程を編成する。専門科目は、系統別に構造、機構、制御、流れ、動力、材料、加工、設計、メカトロニクスに分類される。建学の精神から、必要最低限の機械工学の教育は必修科目として配置するが、自由・自治の観点から高度な専門科目に関しては選択科目として配置する。なお、専門科目の系統的な教育を促進するために、履修モデルを学修要覧に掲載している。</li> <li>6. 技術者として自ら問題を発見し、それを解決するためのプロセスを計画的に進め、結果を理工学的に考察できるデザイン能力と責任分担能力を修得するための体験学習科目を配置する。</li> </ol>	<p style="text-align: center;"><b>備考（参照基準・到達目標など）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 機械工学科のカリキュラムポリシーとディプロマポリシーは日本学術会議の機械工学分野の参照基準に準拠している。</li> <li>2. 機械工学科のカリキュラムポリシーとディプロマポリシーはJABEE エンジニアリング系学士課程 機械及び関連の工学分野の認定基準を参考に作成している。</li> <li>3. 系統別の学修到達目標レベルは、機械工学科のHPに掲載している。</li> <li>4. 系統的な教育を促進するために、履修モデルを作成し、学修要覧に掲載している。</li> </ol>
	<p style="text-align: center;"><b>機械システム工学科</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>人材の養成及び教育研究上の目的</b></p> <p>機械工学、電気工学、制御工学の基礎を幅広く学修し、機械システムを設計する実践的な経験を積むことにより、社会の多様な要請に応じた機械システムを構築できる技術者を養成することを目的とする。</p>	<p style="text-align: center;"><b>卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）</b></p> <p>所定の年限在学し、以下の能力を身に付けるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（工学）の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会生活の基盤を支える機械システムを担う技術者として必要となる機械システム全体を理解するための論理的思考を身に付けている。</li> <li>2. 機械システムを理解するために必要な機械工学と、これに関連する電気電子工学、制御工学、情報工学などの基礎知識を修得している。</li> <li>3. 得られた知識を利用して機械システムを設計し、機械要素技術を実際に統合する実践的な経験を積んでいる。</li> </ol>

理工学部

理工学部

理工学部

<p><b>電気電子通信工学科</b></p>	<p><b>人材の養成及び教育研究上の目的</b> 電気電子工学の基礎となる知識を十分に修得した上で、幅広く専門知識を身に付け、さらに学生実験や卒業研究を通して実践的な経験を積み重ねることにより、進化する社会の中で技術者として生き抜いていく力を養い、現実に即した発想のもと電気電子分野の知識に基づく理論的裏付けを持った実践によって多彩かつ柔軟に応用できる技術者を養成することを目的とする。</p>	<p><b>卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）</b> 所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（工学）の学位を与える。 1. 幅広い教養を持ち、多面的視点から社会問題を捉えることができ、人間としての高い倫理観をもって、技術者が社会に与える影響、技術者の責任について十分に理解する。 2. 電気電子通信工学に必要な理工学基礎科目に対応する基礎学力、電気電子通信工学の専門コア科目と専門科目に対する十分な知識と応用する能力を修得する。 3. 電気電子通信工学分野の現実の問題に対して、理論的裏付けを持った実践によって、問題発見、解決する能力を有し、深い解析、考察により論理的に結論を導き出すことができる。 4. 幅広いコミュニケーション能力を有し、他者への確に考えを伝え、協働することができ、電気電子通信技術の専門家として社会貢献、自己の将来設計を行うことができる。</p>	<p><b>備考（参照基準・到達目標など）</b> 1. 電気電子通信工学科のカリキュラムポリシーとディプロマポリシーは、日本学術会議の電気電子工学分野の参照基準を参考に作成している。 2. 電気電子通信工学科のカリキュラムポリシーとディプロマポリシーは、大学基準協会の工学教育の認定基準案を参考に作成している。 3. 系統別の教育到達目標レベルは、学科内で作成している。 4. 系統的な教育を促進するために、履修モデルを作成し、学修要覧に掲載している。 5. 別途、育成すべき知識・能力と達成目標をまとめた一覧を作成している。</p>
<p><b>医用工学科</b></p>	<p><b>人材の養成及び教育研究上の目的</b> 工学的分野と医学的分野の両方の知識をバランスよく修得し、生体の機能と構造、及び、疾病病態とその治療に関する総合的な理解を深め、両分野を有機的に融合させることで生体情報機器や先端治療機器の研究開発ができる人材、さらには、医療機器の進歩に柔軟に対応できる人材の養成を目的とする。</p>	<p><b>卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）</b> 所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（工学）の学位を与える。 1. 医用工学およびその基盤となる学問分野の社会における役割および関係性についての理解を修得している。 2. コミュニケーション能力および協調性を維持し、身につけた社会生活の基盤となる知識をもとに他者と適切に協力しながら社会生活を営む能力を修得している。 3. 学位認定に必須となる限られた知識のみならず、医用工学全体を理解、応用するために必要となる医学、理工学に関する幅広い周辺知識を修得している。 4. 自発的な学習と思考ができ、将来の展望を見据えつつ学んだ知識および経験を生かして社会の要請に対応できる能力を修得している。 5. 医用工学およびその基盤となる知識を身につけた者としての確固たる行動規範を修得している。</p>	<p><b>備考（参照基準・到達目標など）</b> 学科が目指す教育目標は、医学と理工学の両方の知識を持ち、これを有機的に結びつけて実践に役立てることのできる技術者の育成である。この目標は臨床工学技士国家資格に求められる資質と共通していることから、当学科のカリキュラムを定める際には臨床工学技士法第14条4号の規定に基づき厚生労働大臣が指定する科目群を参考にした。</p>
<p><b>エネルギー化学科</b></p>	<p><b>人材の養成及び教育研究上の目的</b> 化学・エネルギーに関連する物質、材料、デバイス及びシステムに関する理解を深めることで高度な専門知識・能力を修得し、化学的な視点に立って環境にやさしいクリーンなエネルギーの創成、変換、貯蔵及び利用に必要な高機能性物質や材料並びにデバイスやシステムの開発に貢献できる人材を養成することを目的とする。</p>	<p><b>卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）</b> 所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（工学）の学位を与える。 1. 持続的な発展に向けて化学の担う重要な役割を理解し、自らを自己の思考、判断、行動の支えにできる素養を身に付けている。 2. 技術者に必要な理工学的な基礎知識と化学の専門知識を裏付けとして、社会の発展に必要な課題の発見・解決を実践できる能力を身に付けている。 3. いかなる状況でも論理的な思考に基づいた議論を展開できるプレゼンテーション・コミュニケーション能力を身に付けている。</p>	<p><b>備考（参照基準・到達目標など）</b> 1. エネルギー化学科のカリキュラムポリシーとディプロマポリシーは、「日本技術者教育認定基準 エンジニアリング系学士課程」を参考にしている。 2. エネルギー化学科のカリキュラムポリシーとディプロマポリシーは、「工学教育に関する基準（大学基準協会）」を参考にしている。 3. 学習・教育目標は、「日本技術者教育認定基準 エンジニアリング系学士課程の化学及び関連工学分野」を参考にしている。 4. 系統的な教育を促進するために履修モデルを作成し、学修要覧等を通じて学生へ周知している。</p>

理工学部	理工学部	理工学部	理工学部	理工学部	理工学部	理工学部	理工学部
				理工学部	理工学部	理工学部	理工学部

原子力安全工学科

人材の養成及び教育研究上の目的

原子力の技術継承という社会・産業界の要請を満たすために、原子核や原子力安全の正しい理論学修に加えて放射線を扱う実務を交えた学修によって、高度の原子力理論及び技術を手掛けることのできる専門性を有する技術者の養成を目的とする。

教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

原子力安全工学科では、社会・健康・安全・法律・文化・環境などの総合的な教養を有し、物理・化学・機械・電気に関わる理学・工学的な基礎知識と高度な伝統的技術を基盤に、原子力の安全に対する正確な知識と高い技術者倫理を備えた原子力技術者を輩出するため、下記の教育課程を編成する。なお、教育課程や担当科目の特質を踏まえ、教員団には放射線を取扱う資格を有し、または産業界の在籍経験から実務について教える能力を有する教員を含む十分な数で構成している。

1. 技術者としての素養を身につけるうえで必要となる教養科目と、国際的なコミュニケーション能力を高めグローバルな原子力技術を育成するために必要な外国語科目を配置する。
2. 物理、化学、機械、電気までの幅広い分野の知識を修得するために必要となる「数学系」「自然科学系」「情報系」「工学教養系」から構成される理工学基礎科目を配置する。
3. 原子力の安全のための専門知識を修得するための教育課程を編成する。具体的には、「機械分野」、「電気分野」、「情報分野」などの学科共通科目、および、「原子炉工学」、「サイクル工学」、「原子力機械工学」、「原子力安全工学」、「放射線工学」の5つの各専門分野構成を体系的に配置する。
4. 原子力の安全に貢献し得る技術者として必要となる基礎力と実践力、実社会での課題を探求する問題発見・解決能力、ならびに、実社会の複合的な問題を解決する能力を修得するための教育課程を編成する。具体的には、「電気機械・放射線実験」・「原子力実験実習」・「事例研究」・「卒業研究」などを配置する。また、学外の施設を利用したより実践的な実習を目的として、「原子炉運転実習」・「原子力技能訓練」・「特別講義」を配置する。

卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（工学）の学位を与える。

1. 原子力利用の安全と健全な発展のための理工学的分野から社会工学的分野にわたる総合知識と高い倫理観を修得している。
2. 原子力、放射線等の安全に対する正確な知識と、実際の設備施設を用いた実務レベルの実習・訓練から得られる実学を修得している。
3. 世界的視野にたちグローバル・コミュニケーション能力を修得している。
4. 原子力の安全を工学的に扱うために必要となる教養基礎科目から、原子力利用の安全に関する専門知識を修得している。
5. 絶えざる自己研鑽の士気を涵養し、進歩を希求する積極性を修得している。
6. 併せて、与えられたコストや時間の制約の下で計画的に仕事をまとめられるデザイン能力を養う能力を修得している。
7. 実習などチーム作業の重要局面における自己の役割の弁え方を悟り、かつ他者への思いやりや動機づけ、リーダーシップ等を修得している。

備考（参照基準・到達目標など）

1. 原子力安全工学科のカリキュラムポリシーとディプロマポリシーは、日本学術会議の機械工学分野および電気電子工学分野の参照基準、および、大学基準協会の工学教育の認定基準案を参考に作成している。
2. 系統別の教育到達目標レベルは、学科内で作成している。
3. 学科内各専門分野での履修モデルを学修要覧に掲載し、系統的な教育を促進している。
4. 別途、育成すべき知識・能力と達成目標をまとめた一覧を作成している。

自然科学科

人材の養成及び教育研究上の目的

物理学・化学・生物学・地球科学・天文学及び数学といった自然科学に関する幅広い知識の涵養により、総合的な見識と健全な判断力を醸成し、自然科学における様々な現象を理学的視点により探究できる人材や広範な理学分野の学術的發展に寄与する調査分析能力を身につけた人材を育成することで、複雑化および多様化する社会に柔軟に対応できる人材や科学と社会の架け橋となって人類の持続可能な進歩や福祉に貢献する人材を養成することを目的とする。

教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

自然科学に関する総合的な見識と健全な判断力を有し、自然科学の学術的發展に寄与する調査分析能力を身につけ、社会に柔軟に対応できる人材や科学と社会の架け橋となって人類の福祉に貢献する人材を養成するため、次のような方針に基づき教育課程を編成し実施する。

1. 自然科学の学術的基礎を幅広く体系的に学べるように科目を配置する。
2. 分析科学、野外調査、情報処理等の技能を実践的に学べるように科目を配置する。
3. 教員、博物館学芸員等に求められる能力と免許、資格が得られるように科目を配置する。
4. 科学史、科学哲学、科学社会学等の素養が得られるように科目を配置する。

卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

所定の期間在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（理学）の学位を与える。

1. 自然科学に関する総合的・理学的な見識と健全な判断力を修得している。
2. 自然科学の学術的發展に寄与する調査分析能力を修得している。
3. 科学の社会の架け橋となって人類の福祉に貢献する能力を修得している。

備考（参照基準・到達目標など）

- 教育課程は次の法令を参照して編成する。卒業認定・学位授与に際しては、これらの免許、資格のうちいずれか1つの取得に値する能力を修得していることを目標とする。
1. 中学校教諭一種免許状（数学及び理科）及び高等学校教諭一種免許状（数学及び理科）の取得要件を定める教員職員免許法及び同法施行規則
  2. 博物館学芸員資格の取得要件を定める博物館法及び同法施行規則

建築都市デザイン学部

建築都市デザイン学部

建築都市デザイン学部

**入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）**

【人材の養成及び教育研究上の目的】

建築都市デザイン学部は、住環境から都市環境ひいては地球環境までをデザインする視点を持ちながら、建築都市の諸問題の学問追求を行うという教育理念に基づき、現実に即したアイデアに基づいて、理論的裏付けを持ったデザイン能力によって、建築や都市工学の諸問題に対応できる技術的能力を備えた建築家、技術者を養成することを目的とします。

【求める人物像】

- ・高等学校で学習する内容をよく理解して、建築学や都市工学を学ぶために必要な基礎学力を備えている人
- ・建築や都市に強い関心を持ち、未知の課題に取り組むことやデザインをすることに意欲がある人
- ・建築都市デザイン学部で学び、専門知識と実践する力を身に付けることを目指す人
- ・建築学や都市工学と社会の関わりについて考えることができ、幅広い視野を持って社会の持続的発展や人類の福祉に貢献する志を持つ人

【高校での学習について】

建築都市デザイン学部での学修を無理なく進めるために、高等学校では次の科目を履修していることが望まれます。

- ・数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B）
  - ・理科（物理基礎、化学基礎、物理、化学）
  - ・コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ
- 上記以外に、高校で学ぶすべての科目を重層的に履修することが望まれます。

**教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）**

建築都市デザイン学部では、基礎・基本に重点をおき、専門領域の基本となる考え方を学ぶ。その上で、現実に即したアイデアにより、理論的裏付けを持ったデザイン能力を有する人材を養成するため、次のように教育課程を編成する。

1. 幅広い教養と国際的コミュニケーション能力を修得し、それを支える心身を鍛錬するために、「教養科目」・「外国語科目」・「体育科目」・「PBL科目」を配置する。
2. 建築都市デザイン全般に共通する根底となる知識・能力（実行、思考、協働など）・倫理観及び深い専門的知識・能力を修得するために、「学部基盤科目」・「専門科目」を体系的に配置する。
3. 技術者として仕事を遂行する基礎力、実社会での課題を探究する能力及び実社会の複合的な問題を解決する能力を修得するために、「専門科目」のうち事例研究や卒業研究等を配置する。

**卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）**

所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得した者に、学士（工学）の学位を与える。

1. 都市や地域の維持・発展に貢献する社会人として、豊かな教養とコミュニケーション力、状況を分析・判断する能力を修得している。
2. 建築都市デザイン全般に必要な基礎学力と、学科の分野に対応する十分な専門知識を修得している。
3. 社会の様々な要請に対応するために、現実に即したアイデアのもとに、理論的裏付けを持ったデザイン能力を修得している。

<b>建築学科</b>	人材の養成及び教育研究上の目的	科学技術が高度に発展した現代において、歴史・文化を踏まえた上で都市・地域を再生し、人間生活や社会機能の高度化・複雑化に対応でき、自然環境と調和できる建築・都市を実現するために、人間としての幅広い教養、建築学に係わる総合的な基礎能力及び応用能力を培い、広く社会の発展に貢献できる建築設計者・建築技術者の養成を目的とする。			
	教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）	建築学科では、人間－建築－都市という建築都市システムの有機的な関係を理解し、安全・健康・快適な環境を構築し持続的に維持する建築家、建築技術者を養成するため、次のように教育課程を編成する。 1. 社会・健康・安全・法律・文化・環境などの教養や技術者倫理を修得し、現実の問題に対して、実践力と理論的な裏付けに基づく適切な行動をとることができ、自らのキャリアを確立するための教育課程を編成する。具体的には、幅広い教養と国際的コミュニケーション能力を修得し、これを支える心身を鍛錬するために、「教養科目」・「外国語科目」・「体育科目」・「PBL科目」を配置する。 2. 建築都市デザイン全般に共通する知識・能力（実行、思考、協働など）、及び、深い専門的知識・能力を修得するための教育課程を編成する。具体的には、「学部基盤科目」と「専門科目」を体系的に配置する。 3. 建築家・建築技術者として仕事を遂行する基礎力と実践力、実社会での課題を探究する問題発見・解決能力、及び、実社会の複合的な問題を解決する能力を修得するため教育課程を編成し、「専門科目」を配置する。 4. コミュニケーション能力を高め、建築の専門家として、自己の将来設計を高めるために教育課程を編成する。具体的には、「外国語科目」、事例研究・卒業研究・設計などを含む「専門科目」を配置する。 5. 卒業と同時に全員が一級建築士の受験資格を満たすようにバランス良く科目を配置する。	卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）	所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得した者に、学士（工学）の学位を与える。 1. 建築学の基礎と専門の各分野に対応する十分な知識と能力を修得し、建築の文化芸術的側面と工学的側面を多角的、総合的に理解できる。 2. 数学、自然科学など工学全般に必要な基礎学力を持ち、様々な問題に応用できる。 3. 現実に即したアイデアにより、問題発見・解決やコミュニケーションを行うための、デザイン能力を持つ。 4. 建築の文化、技術の発展に寄与し、社会の発展に貢献する能力を有している。 5. 第三者に伝達したい内容を論理的に記述し、口頭で発表し、討論することのできるコミュニケーション能力および基礎的な国際的コミュニケーション能力を持つ。	備考（参照基準・到達目標など）
<b>都市工学科</b>	人材の養成及び教育研究上の目的	工学の基礎力及びシビルエンジニアリングに関する実務の理解・デザイン能力を含む総合的問題解決能力をそなえた、社会の中核となる人材を育成すること、並びに人間－自然環境－社会システムの健全かつ持続的な共生関係を理解し、安全で快適な都市環境の実現に向けて、都市の構築・維持管理、都市環境の改善・創造、及び災害に強い都市づくりに貢献できるエンジニアを養成することを目的とする。			
	教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）	都市工学科では、人間－自然環境－社会システムの健全かつ持続的な共生関係を理解し、安全で快適な都市環境の実現に向けて貢献できる技術者を養成するため、次のように教育課程を編成する。 1. 地球的視点に立ち、多面的に物事を考える能力とその素養を身につけるため、「教養科目」や「学部基盤科目」において自然科学系科目群を配置する。 2. 都市工学技術者としての社会的使命と、技術者が社会に負っている責任を理解するため、「学部基盤科目」において技術者倫理と「教養科目」や「PBL科目」を配置する。 3. 都市工学の深い理解のため、「学部基盤科目」において情報系科目群を配置する。 4. 都市の構築・維持管理、都市環境の改善・創造、及び災害に強い都市づくりに貢献できる能力を身につけるため、「専門科目」を配置する。 5. 社会の要請に応じた事業を計画・実行するために、相互理解し、説明責任を果たすための能力を身につけるため、「外国語科目」や「学部基盤科目」において情報系及び総合系科目群を配置する。 6. 課題に主体的に取り組み、解決する能力を身につけるため、「学部基盤科目」においてインターンシップや「専門科目」において都市工学実験演習等の体験学習型の科目を配置する。 7. 課題を自主的に探究し、専門知識や技術を総合して、解決する能力を身につけるため、「専門科目」において設計基礎、都市工学設計製図、事例研究、卒業研究等の科目を配置する。 8. 実務上の問題を理解し対応する基礎能力を身につけるため、「専門科目」においてキャリア開発、設計基礎、都市工学設計製図等及びマネジメント科目群を配置する。 9. 制約のある中で計画的に対処でき、吸収力・応用力のある心身堅固な技術者となるための素養を身につけるために、「専門科目」において事例研究、卒業研究、都市工学設計製図、都市工学実験演習等の科目や「体育科目」を配置する。	卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）	所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得した者に、学士（工学）の学位を与える。 1. 地球的視点に立ち、社会の動向を理解し、技術者としての使命と責任を理解できる教養力を修得している。 2. 情報処理力を含む工学の基礎力と、シビルエンジニアリングに関する実務の知識と理解、デザイン能力を含む総合的な課題解決能力を修得している。 3. 社会の要請に応じた事業を計画・実行するために、相互理解し、説明責任を果たすためのプレゼンテーションとコミュニケーションの能力を修得している。	備考（参照基準・到達目標など）

情報工学部

情報工学部

情報工学部

**入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）**

**【人材の養成及び教育研究上の目的】**

現代の“情報社会”はネットワークの高度化、ビッグデータ解析技術および人工知能（AI）等の発展により“超スマート社会”に進化しようとしています。“超スマート社会”では、情報科学の様々な専門知識を身に付けた技術者、IoTを駆使できる技術者、AI・ビッグデータ解析技術等を諸問題解決に適用できる能力を有する技術者が必要です。情報工学部では、“超スマート社会”の発展に寄与する「知の創造」を担う人材を養成することを目的とします。

**【求める人物像】**

- ・超スマート社会”において、イノベーションから新たな価値の創造（知の創造）を志向する人
- ・数学・自然科学に対して興味と探究心を持ち基礎学力と思考力を合わせ持つ人
- ・“超スマート社会”を支える知識・技能を修得する志を持つ人
- ・修得した知識と技能を利用して、国籍、経歴、専門等が異なる人々とコミュニケーションし協働作業をすることを志向する人

**【高校での学習について】**

情報工学部での学修を無理なく進めるために、高等学校において、数学、理科、英語を中心とした基礎学力を身に付けておいてください。特に、数学に対しては「数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B」を、英語に対しては「コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ」を、それぞれ履修していることが望まれます。

**教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）**

1. 高度な科学技術の知識を総合的に修得し、それら技術を課題解決・価値創造に活用し、さらに、国際人として活躍できるようにするため、「教養科目、体育科目、外国語科目、PBL科目」「情報工学基盤科目」「専門科目」を体系的に配置する。
2. 学部の教育・研究目標を、社会の多様性に応じて実現するために、学部共通の「情報工学基盤科目」内に「情報基盤系」科目群を配置し、学生のアカデミックキャリアの早期からのプランニングと実践を支援する。
3. 学生同士および学生と教員が多くの時間を共有し、相互の多様性を認めつつ連帯感を持ちながら課題・研究等に取り組む「卒業研究関連科目」群を「専門科目」内に配置することで、主体的に研究・開発を担う資質の養成と、建学の精神である「公正・自由・自治」を実践する気概を養う。

**卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）**

所定の年限在学し、以下の能力とともに所定の単位数を修得した者に、学士(工学)の学位を与える。

1. 科学と工学を体系的に理解すると共に、幅広い教養を有し、課題に対してその本質に立ち戻って解決する能力を修得している。
2. 各学科の専門分野での教育を通じて、修得した知識を総合的に活用できる能力、および関連する新しい知識を生涯にわたり探求する能力を修得している。

<b>情報科学科</b>	<p><b>人材の養成及び教育研究上の目的</b></p> <p>情報科学に関する専門知識と応用能力を兼ね備え、技術を総合的に活用したシステムとしてのコンピュータの開発能力を持ち、世の中の要請に応えるべく、問題の本質を積極的に解決する能力を身に付けているだけでなく、コンピュータが豊かな社会に貢献するための倫理観をも身に付けている人材を養成することを目的とする。</p>	<p><b>教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）</b></p> <p>情報工学に関する基盤技術や総合的な情報システムの開発能力を有するとともに、技術者倫理を身に付けた創造性豊かな人材を養成する。情報専門学科におけるカリキュラム標準にも準拠し、以下の能力を修得させるためのカリキュラムを制定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己を確立して社会に貢献するために、様々な社会や文化、および歴史を理解し、世界的な視野で物事を考える能力を修得するための科目を配置する。</li> <li>2. 技術社会における責任感と倫理観を修得するための科目を配置する。</li> <li>3. 情報工学を学ぶために必要な数学・自然科学に関する能力を修得するための科目を配置する。</li> <li>4. コンピュータ全般にわたる基礎とソフトウェア、およびプログラミングに関する基礎的能力を修得するための科目を配置する。</li> <li>5. 情報工学に関する幅広い視野とその応用力を有する技術者を養成するために「計算機工学」・「メディア工学」・「情報数理」の3つの専門応用科目を配置する。</li> <li>6. 日本語による論理的記述能力と意思伝達能力の修得、ならびに国際感覚と外国語による意思伝達能力を修得するための科目を配置する。</li> <li>7. エンジニアリングデザイン能力、およびチームによるプロジェクト遂行能力の修得のため、調査・討議・考察・実験等を行う体験学習科目を配置する。</li> </ol>	<p><b>卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）</b></p> <p>所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（工学）の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報専門学科におけるカリキュラム標準に基づいた専門知識と応用能力を兼ね備え、世の中の要請に応えるべく、問題の本質を積極的に解決する能力を身に付けている。</li> <li>2. コンピュータに関する基盤技術だけでなく、基盤技術を総合的に活用したシステムとしてのコンピュータの開発能力を持ち、コンピュータが豊かな社会に貢献するための倫理観をも身に付けている。</li> </ol>	<p><b>備考（参照基準・到達目標など）</b></p> <p>参照基準「情報専門学科におけるカリキュラム標準J07」 米国のコンピュータに関する最大の学会であるIEEE（The Institute of Electrical and Electronics Engineers）とACM（Association for Computing Machinery）が策定した情報専門教育に関するカリキュラムを基に、日本の情報処理学会が日本における情報専門教育の状況に対応して見直しを行った標準的なカリキュラム</p>
	<b>知能情報工学科</b>	<p><b>人材の養成及び教育研究上の目的</b></p> <p>数理的分析力や情報処理能力を基盤として、複雑なシステムを分析し、その結果から解決案や新しいシステムをデザインし、それをマネジメントと新しいビジネス展開することを通じて、社会に貢献できるマネジメント能力をもった総合的技術者を養成することを目的とする。</p>	<p><b>教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）</b></p> <p>知能情報工学の観点から社会や人にかかわる問題を把握し、人工知能や人間の知能、クラウド知能など様々な知能を活用し、付加価値の高い製品やサービスあるいはシステムを分析・評価・設計でき、グローバルな超スマート社会で問題解決ができる人材の養成を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自然科学・人文科学・社会科学などの教養・体育・外国語科目を配置し、幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する。</li> <li>2. 超スマート社会における諸問題を分析し、解決する基本的な考え方や方法を学ぶために、数学・自然科学・情報等に関する知識工学の基盤科目を配置する。</li> <li>3. 知能情報工学における問題解決を図るために必要な情報通信技術、数学的・統計的解析技術、人工知能技術およびマネジメント系基礎に関する科目を配置する。</li> <li>4. 社会や人にかかわる問題解決のための様々な知能活用技術に特化した教育を行い、より横断的な知識と技術力を持って、グローバルな視点から様々な問題に対応できる教育を行う。</li> <li>5. 知能情報技術および統計的解析技術などの教育とマネジメント系科目の演習・実験を重視し、「知的経営システム」、「大規模データ解析」、「人工知能」、「人間情報システム」、および「IoT」の5つの専門科目群で構成する。</li> <li>6. グローバル経営の必要性が叫ばれるなかで、経営を科学することにより、企業活動を合理的で、効果的に遂行できる能力を持つ人材を育成するための科目を設置する。</li> <li>7. 実験、実習、演習、体験学習等の科目を設置し、アクティブラーニングによって自ら問題を発見し、数学的に分析・評価・計画・設計できるデザイン力および提案力を育成する。また必修科目のほか多角的な視点を涵養し、専門分野を深化させ、あるいは応用力を身につけるために選択科目を配置する。なお、専門科目の系統的な教育を促進するために、履修モデルを学修要覧に掲載している。</li> </ol>	<p><b>卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）</b></p> <p>所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（工学）の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 数学、自然科学、情報など知識工学の基礎を社会の様々な問題に応用できる。</li> <li>2. 知能情報工学の観点から世の中の活動や問題を理解し、問題の対象をシステムとして把握し、対象システムが自然や人間社会に及ぼす影響について考えることができる。</li> <li>3. 数理的知識と情報通信技術を活用し、付加価値の高い製品やサービスを産出すシステムを分析・評価・設計できる。</li> <li>4. 日本語で論理的に物事を考え、表現し、発言できる能力、またグローバルな世界で活躍できるコミュニケーション能力およびマネジメント能力を修得している。</li> <li>5. 知能情報工学科を専門として学修した者として、当学科の教育課程における科目を修得し、それらの必要な到達目標に到達している。</li> <li>6. 専門課程修得者として自ら問題を発見し、それを解決するためのプロセスを計画的に進め、結果を知能情報工学的に考察できるデザイン能力と責任分担能力を修得している。</li> </ol>

環境学部	<p><b>入学受け入れの方針（アドミッションポリシー）</b></p> <p>【人材の養成および教育研究上の目的】 環境問題の解決には、自然生態系と社会システムの間を総合的に理解し改善することが必要です。そのために、自然と調和した地域や都市の環境を創生する能力を備えた人材、経済活動の環境負荷を低減した社会システムを実現する能力を備えた人材を養成することを目的とします。</p> <p>【求める人物像】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系の保全・復元、環境に配慮した都市環境、持続可能な社会を実現する意欲のある人</li> <li>・自然のメカニズムや環境の分析・調査に関する知識や技能を身に付けたい人</li> <li>・環境問題を理解する思考力や環境を可視化し発信する表現力を身に付けたい人</li> <li>・環境問題解決のために主体的に行動し、周囲と協働できる人</li> <li>・多様な人々や価値が共存するグローバル社会に対応する意欲のある人</li> </ul> <p>【高校での学習について】 環境学部での学修を無理なく進めるために、高等学校では次の科目を履修していることが望まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B）</li> <li>・国語（国語総合）</li> <li>・英語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ）</li> </ul>		
	<p><b>教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境に関連する幅広い視野と教養を身に付けるために、外国語科目、体育科目、および社会科学・人文学・自然科学、情報処理、社会実習などに関わる科目等の教養科目を配置する。</li> <li>2. 高い倫理観をもって社会の持続可能な発展を構想し、かつ環境問題を科学的に調査、分析及び評価するために、自然・人文学・社会科学における広範かつ必要な専門基礎科目を設置する。</li> <li>3. 環境問題を解決する専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために、学科基礎科目と学科専門科目を設ける。学科共通の基礎科目として、数理統計系科目、分析計測系科目、環境問題と関連する科目群を配置する。また、学科の専門科目として、各専門分野に独自の専門性の高い科目群を配置する。</li> <li>4. 3年次の事例研究および4年次の卒業研究を必修として設置する。学生が主体的に問題を発見し、その問題に適した理論的枠組みを作り、調査や分析を行い、問題の解決に関する論文を執筆して発表する。</li> </ol>		
環境創生学科	<p><b>学位授与の方針（ディプロマポリシー）</b></p> <p>所定の年限在学し、以下の能力を身に着けるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（環境学）の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域から地球規模に至るまで、人類が直面する環境問題に対して、科学的な調査、分析及び評価ができ、解決方法を構想することができる能力を修得している。</li> <li>2. 環境に対する高い倫理観をもって、社会の持続可能な発展に貢献することができる能力を身に着けている。</li> <li>3. 環境に関連する幅広い教養と学識を身に付け、異なる文化や価値観を持つ人々とのコミュニケーションができる能力を身に付けている。</li> </ol>		
	<p><b>人材の養成及び教育研究上の目的</b></p> <p>持続可能な社会の基盤である生態環境と都市環境並びにそれらの相互関係を理解するとともに、劣化した自然環境の保全・復元・創造や人間社会にとって快適で安全な都市空間創造についての理念と方法論を修得し、実社会において持続的な環境を創生する専門家として活躍する人材の養成を目的とする。</p>	<p><b>教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）</b></p> <p>環境創生学科では、自然科学的視点を中心とする研究と教育を展開する。そのために、自然環境の保全や修復及び創生を扱う「生態環境分野」、および人間及び人間社会にとって快適な空間を創出する「都市環境分野」の二つの専門分野を設定し、以下の4点を重視した教育を推進する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幅広い視野と教養を身に付けるために、外国語、体育、および社会科学・人文学・自然科学、情報処理、社会実習に関わる科目等の教養科目を配置する。</li> <li>2. 自然環境や建造環境に関する問題を実践的に学修するために、また横浜キャンパスの環境に配慮した設備や保全林を有効活用するために、環境フィールド・計測演習、環境情報可視化技法、生態環境実習、測量学実習など、実習や演習のフィールド系科目を配置する。</li> <li>3. 自然科学的な視点と方法で環境問題を学ぶために、環境数理学入門、環境統計学、環境化学、環境分析演習、地理情報システム、環境モニタリング技術、生態系アセスメントなど、環境に関する情報を計測・数量化・分析する学科基礎・基盤系科目を配置する。</li> <li>4. 持続可能な社会の構築に向け社会科学的方法を学習するために、専門基礎科目において社会科学系科目を配置する。また環境問題の解決に向けた地域社会や政策を学習するためにより応用的な学科専門科目や「事例研究」、「卒業研究」を配置する。</li> </ol>	<p><b>学位授与の方針（ディプロマポリシー）</b></p> <p>所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（環境学）の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 都市、地域、そして地球環境に関する広範な知識と教養を持ち、それらを実社会に応用する能力を身につけている。</li> <li>2. 顕在化する環境問題を科学的に理解し、問題解決のための政策や手段を構想する能力を修得している。</li> <li>3. 持続可能な社会を構築するために必要な環境情報を処理し共有し、分析やモニタリングを行う知識と能力を修得している。</li> <li>4. 自然の持つ多様性を人工環境に取り入れて、快適な環境を創出する知識と能力を修得している。</li> </ol>
環境経営システム学科	<p><b>人材の養成及び教育研究上の目的</b></p> <p>直面する環境問題は、地球温暖化、廃棄物問題と循環型社会づくり、化学物質の環境リスク、大気と水の保全、生物多様性の減少など、人間の日常生活と事業活動が原因で発生している。このような環境問題に対処するために、環境経営と環境政策を基軸とする教育と研究を推進し、持続可能な社会に向けた意思決定を行うことができる人材を養成することを目的とする。</p>		
	<p><b>教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）</b></p> <p>環境経営システム学科では、企業が環境に調和した製品や技術を開発して持続可能型経営に転換するための知識や技術を学ぶ「環境経営分野」、および持続可能な企業活動、消費行動および社会活動を促進するための政策立案について学ぶ「環境政策分野」の二つの専門分野を設定し、以下の3点を重視した教育を推進する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際的で幅広い視点から持続可能な発展の実現のための具体的な提案と行動を実践できる人材の育成のため、外国語、体育、人文学、情報処理、社会実習などの教養科目を配置する。</li> <li>2. 地球環境問題の実際の解決に不可欠な社会科学と自然科学双方の知識の修得は、専門基礎科目でマイクロ経済学、生態学概論等の基礎知識を学んだ上で、より応用的な環境ロジスティクス、環境経済学等の学科専門科目ならびに「事例研究」および「卒業研究」で、環境問題を実際に解決するための問題発見・解決能力を身に付ける。</li> <li>3. 学科専門科目、「事例研究」および「卒業研究」では、企業、政府機関、市民団体との協働によるプロジェクト教育も充実させる。</li> </ol>	<p><b>学位授与の方針（ディプロマポリシー）</b></p> <p>所定の年限在学し、所定の単位数を修得し、以下の能力を身に付けた者に、学士（環境学）の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 持続可能な社会について理解し、それを実現するために必要な専門的な知識およびビジョンを修得している。</li> <li>2. 企業、政府、市民社会から成る実社会の特徴と課題を認識し、実社会における問題解決のための専門知識に基づいた提案と実践力を身に付けている。</li> <li>3. 国際的な視点に立ったうえで、修得した知識に基づいて実社会において持続可能な社会を実現するための問題解決と実践力を修得している。</li> </ol>	<p><b>備考</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本学科では、持続可能な発展の実現に向けて、具体的な提案と行動を実践できる人材を育成するために科目編成を行っている。</li> <li>2. 学習成果としては、①環境・持続可能な社会を実現するために必要な専門的な知識、②企業（環境経営）、政府および市民社会（環境政策）で活躍できるスキル、③国際的な視点、④問題解決のための提案と実践力を習得することが出来るカリキュラム構成としている。</li> <li>3. 環境管理士、宅地建物取引士、公害防止管理者などの資格取得が出来る科目編成を行っている。</li> </ol>

**入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）**

【人材の養成および教育研究上の目的】

変化する情報・コミュニケーション環境のもとで、新たな情報社会を創り出すことを目指します。そのために情報通信技術が生み出す社会を調査、分析し、より良い生活の実現に向け、情報システムや社会の仕組みを創造し、さらに評価、改善できる人材を養成することを目的とします。

【求める人物像】

- ・学科の学修に必要な基礎的学力を身に付けている人
- ・学科の研究領域に関心を持ち、情報と社会の諸問題に取り組む高い意欲がある人
- ・知的好奇心が旺盛で、主体的に学修を深めることができる人

【高校での学習について】

メディア情報学部での学修を無理なく進めるために、高等学校での学修について以下のことを求めます（AO社会人型入試および外国人留学生入試については、必ずしもその限りではありません）。

〔社会メディア学科〕

次の科目を履修していることが望まれます。

- ・英語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ）
- ・国語（国語総合）または数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B）

〔情報システム学科〕

次の科目を履修していることが望まれます。

- ・英語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ）
- ・数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B）

**教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）**

1. 情報と社会に関する幅広い視野と教養を身につけるため、自然科学・社会科学両面の「教養科目」及び「体育科目」を設置し、また異なる文化や価値観の人々とのコミュニケーション能力を身につけるために「外国語科目」を設置する。
2. 情報と社会を理解し分析するにあたって必要な基礎知識や技能等を、社会科学と情報科学の視点から修得させることを目的として「専門基礎科目」を設置する。
3. 学科に係る専門的な方法論と知識を学び、また学科の専門分野に共通して修得すべき知識の学習を行って専門科目での学習の基盤を養うため「学科基盤科目」を配置する。
4. 社会・人間環境や情報環境に関する現状やニーズの調査・分析、評価、問題解決に向けて、実習や演習を重視し実践的に能力の積み上げを図るための「学科専門科目」「専門科目」を体系的に設置する。
5. 調査・分析能力及び問題解決・提言能力のさらなる涵養と、主体的に研究・開発を担う資質の育成、さらには建学の精神である「公正・自由・自治」を実践する気概を養うことを目的として、「事例研究」「卒業研究」を設定する。

**学位授与の方針（ディプロマポリシー）**

所定の年限在学して、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、社会メディア学科においては学士（社会情報学）、情報システム学科においては学士（情報学）の学位を与える。

1. 各学科が設定した専門分野と関連領域について学習し、情報と社会に係る事象について自然科学・社会科学両面から研究する力を修得している。
2. 情報と社会に関連する幅広い教養を身につけ、異なる文化や価値観を持つ人々とコミュニケーションする力を修得している。
3. 社会・人間環境や情報環境に関して、現状やニーズを調査・分析、評価する能力、および課題解決に向けた提案やシステム構築のための基礎知識を持ち、その実現のためのコミュニケーション力、マネジメント力を修得している。

メディア情報学部

メディア情報学部

メディア情報学部

社会メディア学科

情報システム学科

人材の養成及び教育研究上の目的

グローバルな諸問題から身近なコミュニケーション問題までを、社会科学的視点から調査分析し、情報メディアを駆使した解決法を編み出し、社会に向けて説得的に提言できる人材、そのために必要な実践力・リサーチ力、デザイン力、コミュニケーション力を備えた人材を養成することを目的とする。

教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

1. 幅広い視野と教養を身につけるために、外国語科目、体育科目、および、社会科学、人文学、情報処理、社会実習に関わる科目等からなる教養科目を設置する。
2. 情報社会を理解し分析するにあたって必要な基礎知識や技能等について、社会科学と情報科学の視点から修得させることを目的として専門基礎科目を設置する。
3. 学科に関わる専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために、専門科目を設置する。学科基盤科目と専門分野ごとの学科専門科目を置き、社会環境、情報環境などを調査・分析し、解決に向けた提言、構築ができる基礎能力を身につけることができる構成とする。
4. 学科基盤科目では、学科の専門分野に共通して修得すべき科目を教授し、専門科目の体系的学習の基盤を養う。
5. 学科基盤科目では、社会メディアに関連する社会学・心理学・認知科学等関連領域の理論や基礎知識、思考・発想法、基礎的スキル、方法論、ウェブデザイン関連科目などから構成する。
6. 学科専門科目では、専門分野を「ソーシャルデザイン分野」と「メディア・コミュニケーション分野」の2分野に区分し、それぞれ独自の専門性の高い科目群によって構成することで専門分野を深く掘り下げた内容を教授する。
7. 専門科目では、実習や演習等を重視し、実践的に能力の積み上げを図る。3年次の事例研究および4年次の卒業研究を必修とし、調査・分析能力、問題の解決・提言能力の涵養に向け、丁寧な個別指導を行う。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

所定の年限在学して、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（社会情報学）の学位を与える。

1. 学科が設定した専門分野とそれに関連した領域について学習し、広い範囲の社会領域の事象に対し社会科学的方法論に基づく研究を行う力を修得している。
2. 社会と情報に関連する幅広い教養を身につけ、異なる文化や価値観を持つ人々とコミュニケーションする力を修得している。
3. 社会・人間環境や情報環境に関して、現状やニーズを調査・分析、評価する能力、および課題解決に向けた提言やプロトタイプ案を行うだけの基礎知識を持ち、さらにその実現のためのコミュニケーション力、マネジメント力を修得している。

備考

1. 参照基準  
学科設置申請時に、学校教育法第83条、第108条、学校教育法施行規則第163条、大学設置基準第19条～第23条、第43条第1項に基づき、教育課程編成を行った。  
また、学部・学科の教育目標を達成するために、アクティブラーニング、課題解決型学習（PBL）、サービスマネジメントを重視し先進的に取り組んでいる。
2. 到達目標  
卒業後の進路別（「ウェブデザイン、ウェブサービス系企業、広告系企業など」を目指す場合、「マスコミ、企業の企画・調査・マーケティング部門など」を目指す場合、「情報サービス系企業コミュニティビジネスなど」を目指す場合）に、履修モデルを作成し、学修要覧に記載している。

人材の養成及び教育研究上の目的

人々が幸福に暮らせる自然環境・社会環境を維持発展していく基盤として、多様なニーズに応える安全で安心な情報システムの実現に向けた諸課題に取り組むことで、優れたシステムを作り上げるとともに、その必要性を戦略的に提言・説明し実現に向けマネジメントできるアセスメント力を持った人材の養成を目的とする。

教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

1. 幅広い視野と教養を身につけるために、外国語科目、体育科目、および、社会科学、人文学、情報処理、社会実習に関わる科目等からなる教養科目を設置する。
2. 情報社会を理解し分析するにあたって必要な基礎知識や技能等について、社会科学と情報科学の視点から修得させることを目的として専門基礎科目を設置する。
3. 学科に関わる専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために、情報システム構築に必要な科目と情報システムや情報サービスの分析、評価を行うために必要な科目を設置する。学科基盤科目と専門分野ごとの学科専門科目を置き、ユーザの立場から誰もが安心して安全に使える人に優しい情報システムを構築することができる基礎技術と個人から企業組織まで多様なニーズをくみ上げて調査、分析、評価、改善できる基礎的能力を身につけることができる構成とする。
4. 学科基盤科目では、学科の専門分野に共通して修得すべき科目を教授し、専門科目の体系的学習の基盤を養う。学科基盤科目として、情報システムを実現する上で必要とされる数学に関する標準的な科目、プログラミングやソフトウェア開発に関する科目、情報理論、人工知能など情報学の基礎を学ぶ科目、映像や音などメディア処理を学ぶ科目、インターネットや情報セキュリティなどの情報ネットワークを学ぶ科目、情報システムと人間・社会との関わり方を学ぶ科目などから構成する。
5. 学科専門科目では、専門分野を「システムデザイン」と「ICTアセスメント」の2分野に区分し、情報システムをデザインし、これを作り上げる情報システム要素技術を統合できる能力を養う専門性の高い科目群によって構成することで専門分野を深く掘り下げた内容を教授する。
6. 専門科目では、実習や演習等を重視し、実践的に能力の積み上げを図る。3年次の事例研究および4年次の卒業研究を必修とし、調査・分析能力、問題の解決・提言能力の涵養に向け、丁寧な個別指導を行う。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

所定の年限在学して、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（情報学）の学位を与える。

1. 学科が設定した専門分野とそれに関連した領域について学習し、ユーザの立場から誰もが安心して安全に使える人に優しい情報システムを構築することができる基礎技術と個人から企業組織まで多様なニーズをくみ上げて調査、分析、評価、改善する基礎的能力を修得している。
2. プログラミング、ソフトウェア開発、情報学の基礎、メディア処理技術、情報ネットワーク技術を理解し、社会において情報技術を活用する能力を修得している。
3. 情報システムやサービスに関して、ユーザのニーズを調査・分析し、評価する能力を持ち、課題解決に向けて、提言する能力を修得している。

備考

1. 参照基準  
学科設置申請時に、学校教育法第83条、第108条、学校教育法施行規則第163条、大学設置基準第19条～第23条、第43条第1項に基づき、教育課程編成を行った。  
また、学部・学科の教育目標を達成するために、アクティブラーニング、課題解決型学習（PBL）、サービスマネジメントを重視し先進的に取り組んでいる。
2. 到達目標  
卒業後の進路別（「ICT系・メディア系・一般企業の情報システム開発部門」を目指す場合、「ICT企業のITマネジメント部門、システムコンサルタント系」を目指す場合）に、履修モデルを作成し、学修要覧に記載している。



<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">都市生活学部</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">都市生活学科</p>	<p><b>入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）</b></p>	<p>【人材の養成及び教育研究上の目的】</p>	<p>国際化、情報化が進み、世界人口の半数以上が都市に暮らす現代、人々の生活の質を持続的に高める都市創造の学問と実践が必要です。都市を学ぶ総合的な学修環境の中で、社会科学と空間デザインの両方のスキルを幅広く習得し、都市の新時代をリードするビジネスと文化の創造力を身に付けて、企業人や専門家として国際社会で活躍できる人材を養成することを目的とします。</p>	<p>【求める人物像】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市生活学部の理念に共感し、「都市」に関心を持ち、将来、都市に関連する分野で活躍したいと望む人</li> <li>・商学や経営学等の社会科学系の勉学を基本にし、街並みやインテリアなどの空間デザイン、都市の文化・芸術など、幅広い分野に興味を抱き、好奇心旺盛な人</li> <li>・世界中の都市を舞台に、価値ある都市生活の創造に向けて国際社会で活躍したいと望む実践的な人</li> </ul>	<p>【高校での学習について】</p>	<p>都市生活学部での学修を無理なく進めるために、高等学校の次の科目を履修していることが望まれます（入学試験のタイプで受験科目は異なります。また、国際化対応のために英語力の研鑽などが望まれます）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ）</li> <li>・国語（国語総合）</li> <li>・地歴（世界史A、日本史A、地理A、世界史B、日本史B、地理Bの中から2科目以上）</li> <li>・数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B）</li> </ul>	<p><b>卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）</b></p>	<p>所定の年限在学し、以下の能力とともに所定の単位数を修得した者に、学士（都市生活学）の学位を与える。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会を見通す広い教養と、国際的な場で活躍できるコミュニケーション能力を有し、責任ある社会人として活躍できる基礎能力を修得している。</li> <li>2. 社会科学的方法論と芸術・工学的な方法論を複合的に習得し、それらを企画・業務の実践に生かせる応用力を修得している。</li> <li>3. 都市に関する総合的・横断的な知識と、特定領域の深い専門知識を持ち、それらを活用して都市生活の価値創造に寄与する構想力および実践力を修得している。</li> </ol>	<p><b>備考（参照基準・到達目標など）</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 都市生活学部のカリキュラムポリシーとディプロマポリシーは、大学基準協会の大学設置基準、日本学術会議の経営学分野および土木工学・建築学分野の参照基準に準拠している。</li> <li>2. カリキュラムポリシーとしては宅地建物取引士資格、1・2級建築士資格受験、公務員受験に必要とされる科目群も参照基準としている。</li> <li>3. 領域内の系統的な教育を促進するために、履修モデルを作成し、学修要覧などに掲載している。</li> </ol>
		<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">人間科学部</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">児童学科</p>	<p><b>入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）</b></p>	<p>【人材の養成及び教育研究上の目的】</p>	<p>人間科学部では、「保育・教育」「発達・心理」「文化」「保健・福祉」「環境」について総合的に理解し、その向上に貢献できる豊かな感性としなやかな知性を具えた高い専門性を持つ自立する人材の養成を目指しています。</p>	<p>【求める人物像】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもと子どもに関わる大人について学ぶ意欲の高い人</li> <li>・大学で学ぶための基礎学力がある人</li> <li>・自律心があり、人と協力しながら積極的に行動できる人</li> <li>・目的に向かって困難を乗り越え努力しようとする強い意思を持つ人</li> </ul>	<p>【高校での学習について】</p>	<p>人間科学部での学修を無理なく進めるために、文系科目はもとより、理系科目も含めた幅広い基礎的知識の学習が必要です。特に国際的な観点からも外国語の能力が求められます。</p>	<p><b>卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）</b></p>	<p>所定の年限在学し、以下の能力とともに所定の単位数を修得した者に、学士（児童学）の学位を与える。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊かな人間性に根差した学際的教養と、「知」の基盤となる横断的基礎知識、児童の教育・保育および子育て支援の分野に関する専門的知識や技術を修得している。</li> <li>2. 「体験型プログラム」を通して、豊かな自己表現力とコミュニケーション力を身に付け、「理論」と「実践」を総合的に応用することができる。</li> <li>3. 児童学分野における真理探究のための主体的な学びから、柔軟な思考力、課題探究能力および問題解決力を修得している。</li> <li>4. グローバルな視点から物事を考え、現代的課題に対応しうる倫理観および社会的責任を修得している。</li> </ol>

大学院総合理工学研究科

**入学受け入れの方針（アドミッションポリシー）**

「最先端の研究領域にチャレンジし、社会への貢献と、未来の創造を目指す」

□修士課程

高度な専門知識を学ぶとともに国際的に活躍できる語学力を養うことで研究能力を高め、社会構造の変化に迅速に対応できる幅広い応用力と実践力、さらに、課題を解決できる能力と社会に通用する人格を身に付けさせることが教育の目標です。このため、入学を希望する学生に求めている資質と能力は、以下の項目を具備していることです。

1. 総合理工学研究科の掲げる「教育の理念」と「教育の目標」へ共感
2. 理工系専門学力の基礎を有し、多面的な視点から論理的思考
3. 未知な研究分野への強い関心とチャレンジ精神
4. 技術者・研究者として必要な語学力と高度な倫理観

□博士後期課程

先端的な知識と技術を駆使し、着実に課題を解決するとともに、新しい領域を開拓できる能力を身に付けさせることを教育の目標としています。このため、入学を希望する学生に求めている資質と能力は、修士課程において、上記の4項目を十分に身に付けた上で、以下の4項目を具備していることです。

1. 未開の知見を得るための研究活動に必要な幅広い専門学力
2. 自立した研究者になるために、課題解決を目指す研究遂行の持続力
3. 社会における指導的な役割を果たすために必要な実行力
4. グローバルに活躍できるコミュニケーション能力の基礎

**教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）**

総合理工学研究科において、修士課程は、高い専門学力と語学力・情報活用能力を活かし、社会構造の変化に迅速に対応できる幅広い応用力と実践力を身に付け、課題を解決できる技術者・研究者の養成を目的とし、また博士後期課程は、先端的な知識と技術を駆使し社会ニーズを意識しながら、着実に課題を解決するとともに新しい領域を開拓できる研究能力を備えた人材を養成することを目的とし、この目的達成のため、以下の基本方針に基づいてカリキュラムを編成している。

□修士課程

1. 理工学に関する専門知識と実践力を国際社会の発展に役立てられるように、総合教養科目群及び総合基礎科目群を編成し、英語の語学能力や情報活用能力の他、国際感覚が身に付く科目を編成している。
2. 社会構造の変化に迅速に対応できる幅広い理工学に関する高度な専門知識と実践力が身に付くように、各専攻において専門基礎科目群と専門科目群を編成し、専門基礎科目群の科目履修により専門的な基礎知識を、また、専門科目群の科目履修により実践的な力が身に付くように、編成している。
3. 国際社会における理工学に関する課題を自らが発見し解決できる能力が身に付くように、各専攻において実習と特別研究を編成している。

□博士後期課程

1. 理工学に関する新たな知見をまとめて学問として専門知識を体系化できる能力が身に付くように、各専攻において講究を編成している。
2. 他研究・開発機関との技術交流を通じて、先端的な知識と技術を駆使し社会ニーズを意識しながら、着実に課題を解決するとともに新しい領域を開拓できる研究能力が身に付くように、各専攻において特殊研究を編成し、他大学や企業との共同研究を推進している。

**卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）**

総合理工学研究科において、修士課程は、高い専門学力と語学力・情報活用能力を活かし、社会構造の変化に迅速に対応できる幅広い応用力と実践力を身に付け、課題を解決できる技術者・研究者の養成を目的とし、また博士後期課程は、先端的な知識と技術を駆使し社会ニーズを意識しながら、着実に課題を解決するとともに新しい領域を開拓できる研究能力を備えた人材を養成することを目的とし、この目的達成のための科目を履修し、所定の能力を身に付けた者に、以下の基本方針に基づいて学位を授与している。

□修士課程

1. 理工学に関するより高度な専門知識と実践力を、国際社会発展のために役立てることのできる語学及び情報活用能力を身に付けている
2. 社会構造の変化に迅速に対応できる幅広い理工学に関する高度な専門知識を有し、それを応用できる実践力を身に付けている
3. 国際社会における理工学に関する課題を自らが発見し、解決できる能力を身に付けている

□博士後期課程

1. 理工学に関する新たな研究によって得られた知見をまとめあげ、より深化した学問として専門知識を体系化できる能力を身に付けている
2. 他研究・開発機関との技術交流を通じて、先端的な知識と技術を駆使し社会ニーズを意識しながら、着実に課題を解決するとともに新しい領域を開拓できる研究能力を身に付けている

大学院環境情報学研究科

**入学受け入れの方針（アドミッションポリシー）**

□博士前期課程

現代社会では、社会・経済の変化と先端技術の普及に伴い、個人や家族などの小さいスケールから、企業や地域社会、都市や国家や地球全体等の大きなスケールまで、様々な課題が複雑に絡み合う形で、分野横断的に表れてきています。そこで、持続可能な社会の存続に向けて、従来の専門分野にとらわれずに、横断的かつ総合的に問題の解決をはかることが求められています。

【人材の養成及び教育研究上の目的】

環境情報学研究科 博士前期（修士）課程では、環境、情報、都市生活に関わる諸問題に具体的な問題意識を持ち、生活する人々の立場にたつて課題の解決に取り組める人材の養成を目指しています。このため、以下の項目を私達と共有できる学生の入学を求めます。

【求める人物像】

1. 本研究科の掲げる教育理念および目標への共感
2. 現代社会に対する問題意識
3. 国際的、未来的、学際的な視点
4. 問題の解決に対する実践的取り組みへの意欲
5. 他者とのコミュニケーション力
6. 人間として持つべき倫理

□博士後期課程

近年のテクノロジーの発展は、都市化と高度情報化をもたらす一方、国内外を問わず、また企業活動・社会活動など幅広い分野を横断する形で、人間環境に関わる諸問題を多様化させています。環境、情報、都市生活に関わる領域は極めて広範であり、関係する従来の学問領域も多様です。これらの諸問題を解決し、人類社会をより豊かに発展させていくためには、従来の縦割りの学問体系・枠組みを超えて、それらをいわば横糸で通す形で解決策を紡ぎ出す学際的な意識を持った研究が必要です。

【人材の養成及び教育研究上の目的】

環境情報学研究科博士後期課程では、環境、情報、都市生活に関わる諸問題に対する深い洞察力と、新たな研究領域の開拓に取り組む意欲を持ち、学際的な広い視野に立って、高度な研究能力と学識を教授する能力を身につけた人材の養成を目指しています。

【求める人物像】

環境情報学研究科博士後期課程では、このような現代社会の抱える諸問題に対し明確な意識を持ち、持続可能な社会を維持するために必要な環境、情報、都市生活に関わる諸問題の解決に取り組む、新たな学問領域の開拓に意欲を持つ学生を求めます。

**教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）**

□修士（博士前期）課程

〔必修科目〕

環境、情報、都市生活に関する諸問題の解決に必要な科学的思考、調査・分析・評価能力を涵養するため、学生は研鑽を積みたいと考える領域のいずれかの教員の研究室に所属し、その教員からの直接指導のもとで「文献研究・演習」、「特別研究」を履修する。

〔領域ごとの授業科目〕

環境、情報、都市生活に関する特定領域について、分野横断的な幅広い知識と分野ごとの深い知識の両方を身に付けた人材を育成するため、「専門基礎科目」および領域ごとの「専門科目」を設置するとともに、複数領域の単位修得を可能とする。

〔英語などの共通科目〕

国際社会で実践的に活躍できる人材を育成するため、英語によるプレゼンテーション能力を養うための英語科目を共通科目として設置するほか、1年次開催の英語での研究発表（2回）を修了要件とする。

□博士後期課程

〔講究〕

学生それぞれが、学位論文を取りまとめて行くプロセスのなかで、環境、情報、都市生活に係わる先端的知識を、担当教員からの指導を通して獲得する。また、学生が修了後に教育者または学識経験者としての社会的役割を果たすことを想定し、学識を教授するために必要な能力を培う機会を設ける。

〔特殊研究〕

学生が研鑽を積みたいと考える領域のいずれかの教員の研究室に所属し、論文執筆の指導を受けながら研究を構想する。その後、特定の研究テーマを設定し、そのテーマに関わる主たる担当教員から指導を受けて研究を遂行し、学位論文をとりまとめる。また、このプロセスにおいて、学期ごとに研究科における発表の機会を設け、研究科在籍の全教員からの助言を受ける機会を確保する。

**卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）**

□修士（博士前期）課程

〔専門知識・応用力〕

環境、情報、都市生活に関する特定の問題について深く考察し、実践的な問題解決に資する専門知識や能力を身につけた者

〔分析力・構想力〕

現代社会が直面する環境、情報、都市生活に関する諸問題に対する科学的思考、調査・分析・評価を通して解決方法を構想できる能力を身につけた者

〔英語力〕

国際社会に貢献できる素質を持ち、責任感を持って、環境、情報、都市生活の諸問題における研究と実務を進展させる可能性がある者と認められる者

〔研究倫理〕

適切な研究倫理面での配慮のもとに研究を続ける資質と研究を進展させる可能性がある者と認められる者

□博士後期課程

〔高度な研究能力〕

環境、情報、都市生活に関する高度な研究を遂行するとともに、研究の成果を体系的にまとめあげることで、実践的な問題解決に資する専門知識と知の発展に貢献する能力を身につけた者

〔学際的な広い視座〕

環境、情報、都市生活に関連する多様な事象および学術研究成果を俯瞰し、それらを専門知識と結びつけて、新たな価値創造に貢献できる能力を身につけた者

〔研究倫理〕

適切な研究倫理面での配慮のもとに研究を続ける資質と高度な研究を進展させる可能性がある者と認められる者